

SDGsの達成に向けた重点的な取組み宣言書

| | |
|-------|--------------|
| 作成日: | 令和7年10月14日 |
| 事業者名: | 株式会社サンタはじめます |

| 三側面 | SDGsの達成に向けた重点的な取組み | | 関連するSDGsゴール (最大3つ) | 実績 | 指標・目標 | |
|-------|--|--|-------------------------------|---|-------|--|
| 環境 | フードロス OMOIAYA RELAYの物販コーナーにて、非常食・防災備蓄品を定期点検し、賞味期限が近づいたものを「ローリングストック方式」で安い値段設定で販売、売り上げも寄付。 | | ①貧困をなくそう,②飢餓をゼロに,④質の高い教育をみんなに | ライブ会場での“食べて応援”販売ブース イベント会場のフードエリア、またはライブ入場時のグッズ売場近辺に「アジバンダブース」を設置。 味の素グループからの無償提供商品を並べて販売し、売上を子ども支援に回した。 OMOIYARELAY in 大垣と、推しまち春日井の2度実施。 | 指標 | 賞味期限間近食品の有効活用数 |
| | | | | | 目標 | 賞味期限間近食品の有効活用数： 賞味期限が近い防災備蓄食品や協賛企業提供品を100品以上活用（販売・試食・寄付など）する体制を構築する。 地域の子ども食堂や福祉団体との連携により、年間3団体以上へ食品支援を実施する。 |
| 社会 | 地域交流イベントの開催（年1回） 音楽ライブやチャリティイベントを通じて、地域住民・企業・行政・学生が協働する場を創出。 イベントの売上の一部を子ども支援に充てるなど、楽しみながら参加できる社会貢献活動を展開。 アジバンダ食堂との協働による“食べて応援”プロジェクト 味の素グループとのコラボレーションにより、賞味期限間近の食品を有効活用しながら、 来場者が購入・飲食を通じて支援に参加できる仕組みを構築。 | | ①貧困をなくそう,②飢餓をゼロに,④質の高い教育をみんなに | 子ども食堂・地域支援実績 地域の子ども食堂・福祉団体と連携し、賞味期限が近い防災備蓄食品・企業協賛品などを活用して食品提供を実施。 2024年度は愛知県春日井市および岐阜県大垣市で延べ約200食分の食品支援を行い、11団体への寄付を実現した。 チャリティイベントの開催 2024年度に開催した音楽・地域交流イベント「OMOIYA RELAY LIVE」には、来場者約500名が参加。 | 指標 | フードロス削減量 賞味期限間近食品の有効活用数 子ども食堂・福祉団体への食品提供回数 連携団体・協賛企業数 |
| | | | | | 目標 | 子ども食堂・福祉団体への食品提供回数： 毎年度、地域の子ども食堂・福祉団体等への食品提供を3回以上実施し、 継続的な食支援を行う。 2026年度までに、累計10回以上の提供実績を達成する。 |
| 経済 | 寄付・売上の一部を社会貢献に還元する仕組みの確立 チャリティライブやコラボ販売で得た収益の一部を、子ども食堂や地域支援活動に再投資。 「楽しむ・買う・支える」が一体化した消費体験を創出し、社会的価値を伴う経済活動を広げている。 | | ①貧困をなくそう,②飢餓をゼロに,④質の高い教育をみんなに | 飲食・物販ブースの出店により、地元事業者の売上向上を促進。 | 指標 | 地域企業・協賛団体との連携数 フードロス削減によるコスト削減額 寄付・売上の社会還元額 |
| | | | | | 目標 | 地域企業・協賛団体との連携数：2026年度末までに、地域企業・協賛団体との協働数を**2024年度比で2倍（10団体以上）に拡大する。 寄付・売上の社会還元額：2026年度末までに、年間30万円以上の寄付・社会還元を実現する。 「楽しむ経済×思いやりの循環モデル」を確立する。 |
| ガバナンス | チェック | | | | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> | SDGsの達成に向けた重点的な取組みが従業員に共有されており、かつ達成するための仕組みが組織内に構築されている（PDCAサイクル等）。 ＜具体的な内容を記載＞ 活動方針・目標の可視化 年度初めに「OMOIYA RELAY活動計画書」を作成し、重点課題・目標・指標を明示。 | | | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> | SDGsの達成に向けた重点的な取組みをホームページ等で対外的に公表している。 SDG s の取組を掲示 | | | | |